

現地災害調査速報

平成22年12月3日に千葉県鴨川市で発生した突風について

目次

- 1 突風の原因と気象概況
- 2 現地調査結果
- 3 気象の状況
- 4 警報・注意報・気象情報の発表状況
- 5 参考資料

平成22年12月9日

注) この資料は、最新の情報により内容の一部訂正や追加をすることがあります。

銚子地方气象台
東京管区气象台

1 突風の原因と気象概況

12月3日02時30分頃に鴨川市天津で突風が発生し、住家被害などの被害が発生した。また、同日の08時30分頃に、鴨川市小湊漁港でも突風が発生し、陸揚げした船が横倒しになるなどの被害が発生した。

このため4日、銚子地方気象台は職員を気象庁機動調査班として派遣し、現地調査を実施した。

1. 鴨川市天津で発生した突風

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、特定できなかった。

(特定に至らなかった理由)

- ① 被害範囲が比較的狭く、被害や痕跡の分布に、帯状、円状など竜巻やダウンバースト等に特徴的なものは見られなかった。
- ② 被害や痕跡から推定した風向に、明らかな収束性や発散性など、竜巻やダウンバーストに特徴的なものは見られなかった。
- ③ 聞き取り調査からも、現象の特定に結びつく目撃情報や証言を得られなかった。

(2) 強さ(藤田スケール)

この突風の強さは藤田スケールでF0と推定した。

(根拠)

- ① 複数の住家で屋根瓦の損壊やめくれがあった。
- ② 樹木の枝の折損がみられた。

2. 鴨川市小湊漁港で発生した突風

(1) 突風をもたらした現象の種類

この突風をもたらした現象は、特定できなかった。

(特定に至らなかった理由)

- ① 被害範囲が比較的狭く、被害や痕跡の分布に、帯状、円状など竜巻やダウンバースト等に特徴的なものは見られなかった。
- ② 被害や痕跡から推定した風向に、明らかな収束性や発散性など、竜巻やダウンバーストに特徴的なものは見られなかった。
- ③ 聞き取り調査からも、現象の特定に結びつく目撃情報や証言を得られなかった。

(2) 強さ(藤田スケール)

この突風の強さは藤田スケールでF0と推定した。

(根拠)

- ① 複数の住家で屋根瓦のめくれがあった。
- ② 樹木の枝の折損がみられた。

なお、陸揚げした船の横倒しについては藤田スケールの判定には用いていません。

1-2 気象概況

12月3日、前線を伴った低気圧が急速に発達しながら日本海を北東へ進み、この低気圧に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、関東地方では大気の状態が不安定であった。

千葉県鴨川市で突風が発生した時間帯には、活発な積乱雲が被害地付近を通過中であった。

突風被害発生地域



謝意

この調査資料を作成するにあたり、関係機関の方々、千葉県鴨川市の住民の方々にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

2 現地調査結果

実施官署：銚子地方気象台

実施場所：千葉県鴨川市

実施日時：平成22年12月4日 10時15分～15時30分頃

2-1 被害状況

鴨川市天津（6日15時現在）

- ・人的被害 なし
 - ・住居被害 一部破損 12棟
 - ・非住居被害 カーポート全壊1件、倒木1件
- ※鴨川市役所による

鴨川市小湊漁港（6日15時現在）

- ・人的被害 なし
 - ・住居被害 一部破損 3棟
 - ・非住居被害 漁船転倒19隻、物置全壊1件
- ※鴨川市役所による

2-2 聞き取り状況

①A氏（鴨川市天津）

- ・5分くらいゴーという音がした後シューという音がして、全体で5から6分だった。
- ・シューという音のあと時計を確認したところ、02時30分だった。

②B氏（鴨川市天津）

- ・南東方向からゴーという音が数秒続き、家が浮き上がる感じがした。
- ・電話が一時不通となった。
- ・屋根瓦が約30枚破損し100枚程度浮いた。
- ・時計を確認したところ、02時30分だった。

③C氏（鴨川市天津）

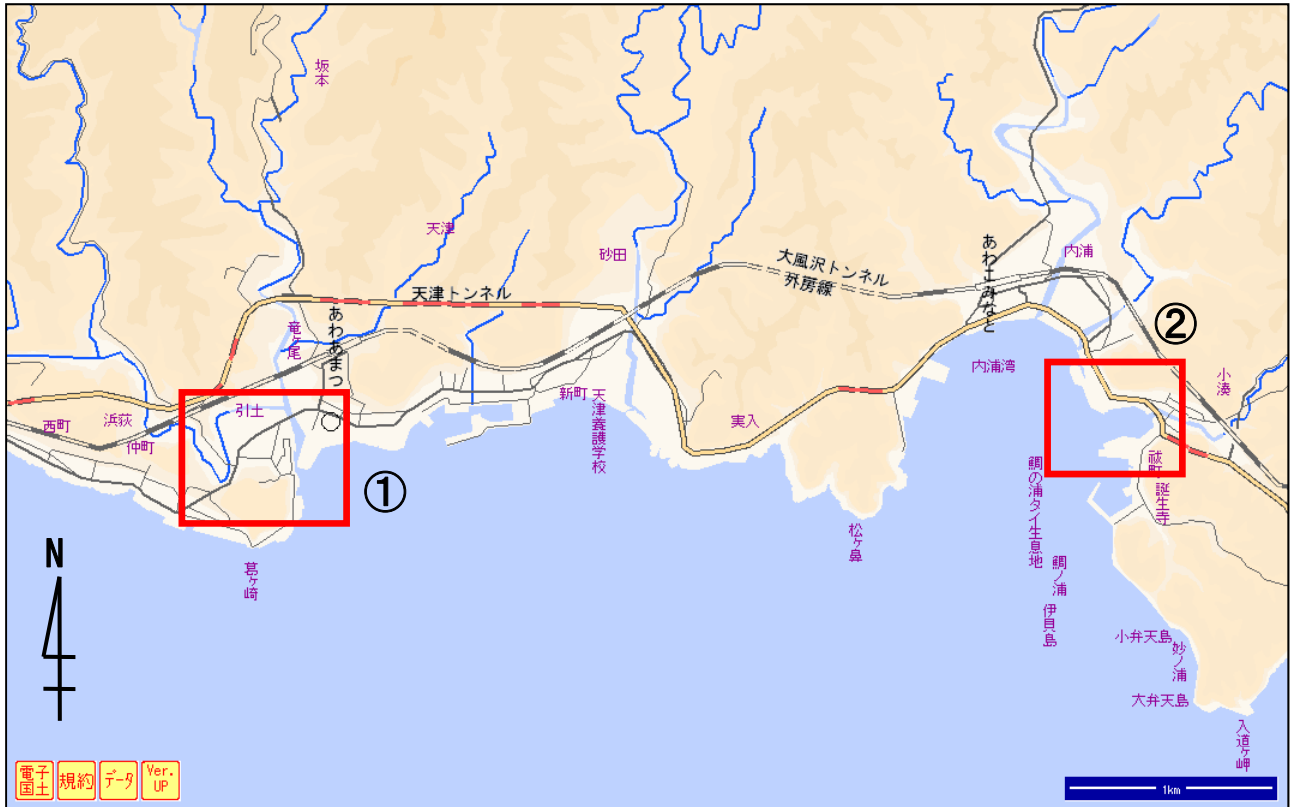
- ・ゴーという音が数秒続いた。
- ・屋根瓦が60枚程度浮いた。
- ・時計を確認したところ、02時30分だった。

④D氏（鴨川市天津）

- ・ゴーという音で目が覚め、東側の窓から外を見ると2階ベランダの屋根が剥がれていた。

- ⑤ E氏（鴨川市天津）
- ・数秒間風の音が凄く、家が軋んだ。
- ⑥ F氏（鴨川市天津）
- ・激しい雨戸の音で目覚めた。
- ⑦ G氏（鴨川市小湊漁港）
- ・家に物がぶつかる音を聞いて外に出ると、玄関前に木材が散乱していた。壁に木材が刺さっていた。
 - ・2階の手すりが曲がり、壁に木材が刺さっていた。
- ⑧ H氏（鴨川市小湊漁港）
- ・08時15分にテレビドラマが終わり外を見ると、1～2分間日が差していたが、その後8時25分頃には空が真っ暗になり、南東方向からゴーという音が聞こえ、港の中が水煙で真っ白になった。
- ⑨ I氏（鴨川市小湊漁港）
- ・民宿で08時過ぎから朝食を出しているが、今までに聞いたことのない、ゴーという激しい音が1～2分続いた。
- ⑩ J氏（鴨川市小湊漁港）
- ・ゴーという激しい音がして、風が東から西に吹き抜け船が倒れた。



○被害発生地域図（千葉県鴨川市）



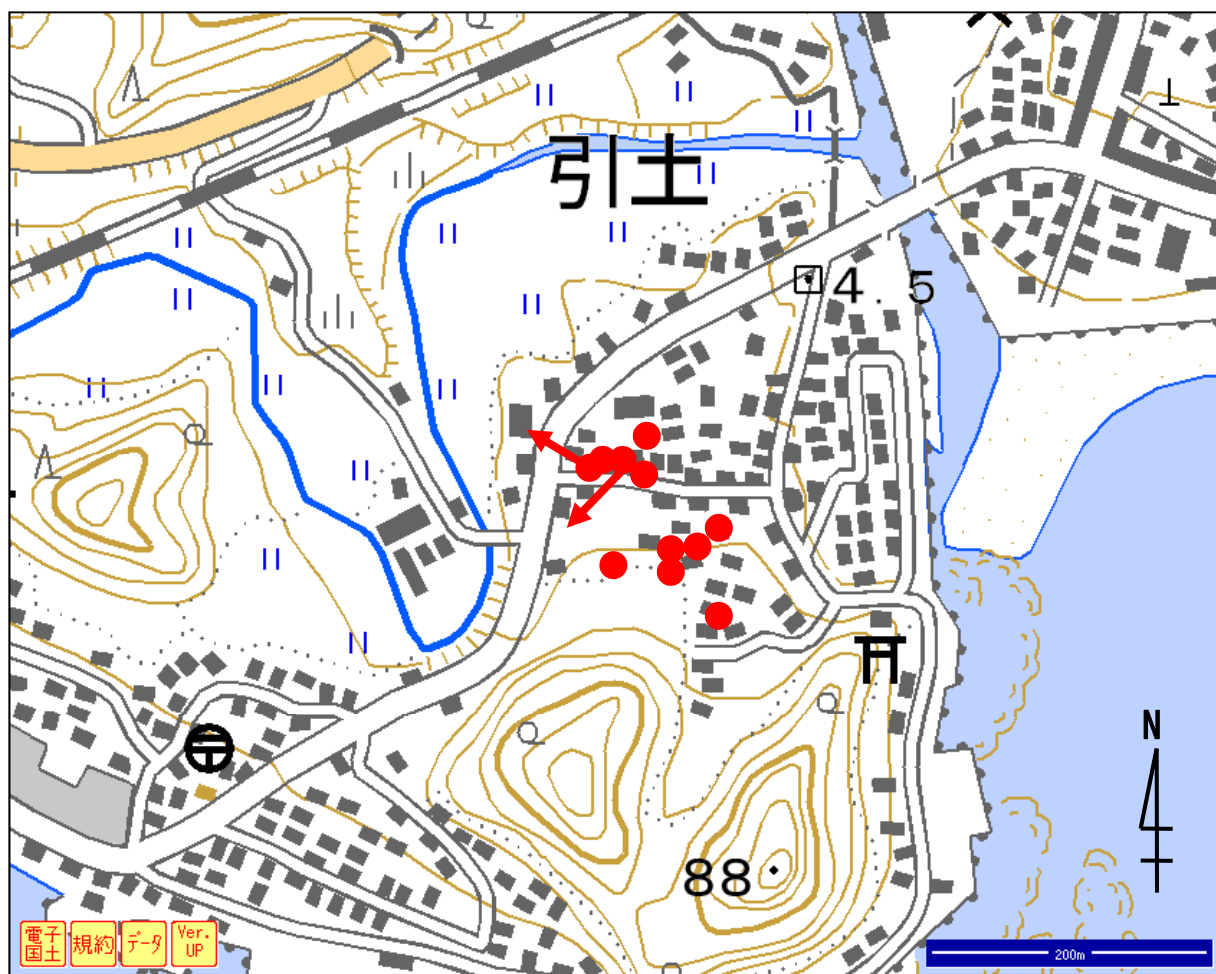
- ① 鴨川市天津を含む地域
- ② 鴨川市小湊漁港を含む地域

次ページ以降に赤枠内の拡大図があります。



○被害発生地域拡大図（千葉県鴨川市天津）

	木や物が倒れた方向
	被害の発生した地点

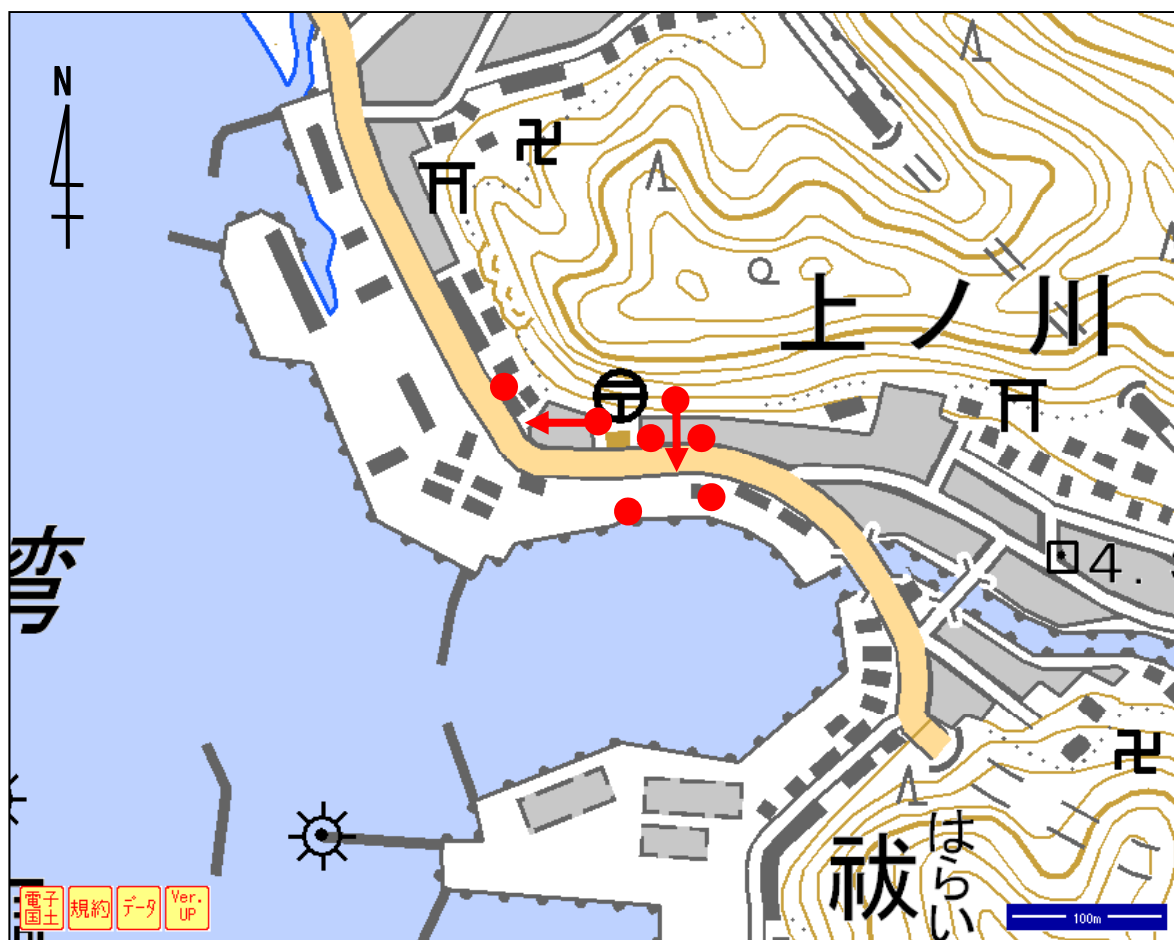
① 鴨川市天津で発生した突風による被害



○被害発生地域拡大図（千葉県鴨川市小湊漁港）

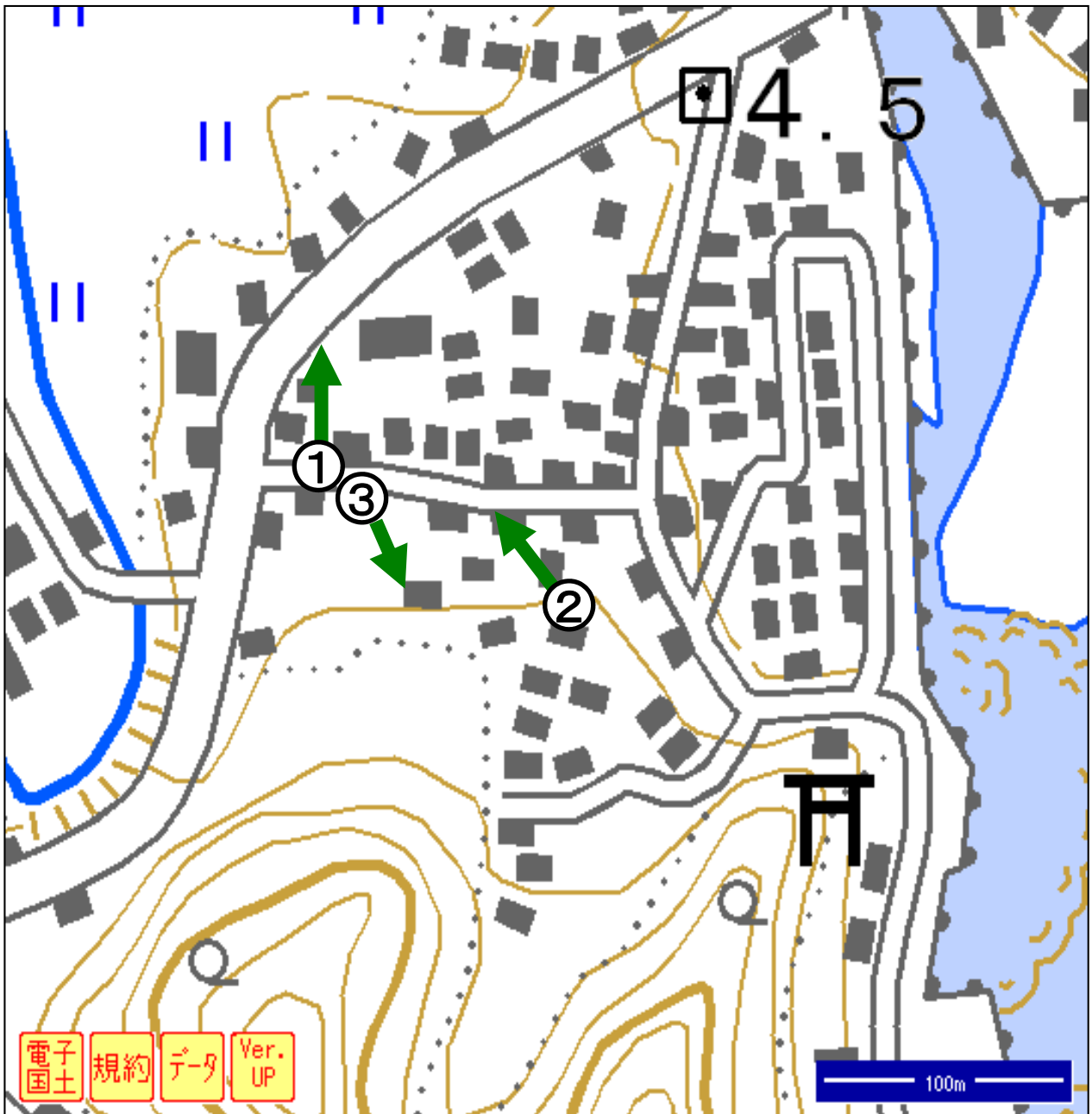
	木や物が倒れた方向
	被害の発生した地点

② 鴨川市小湊漁港で発生した突風による被害



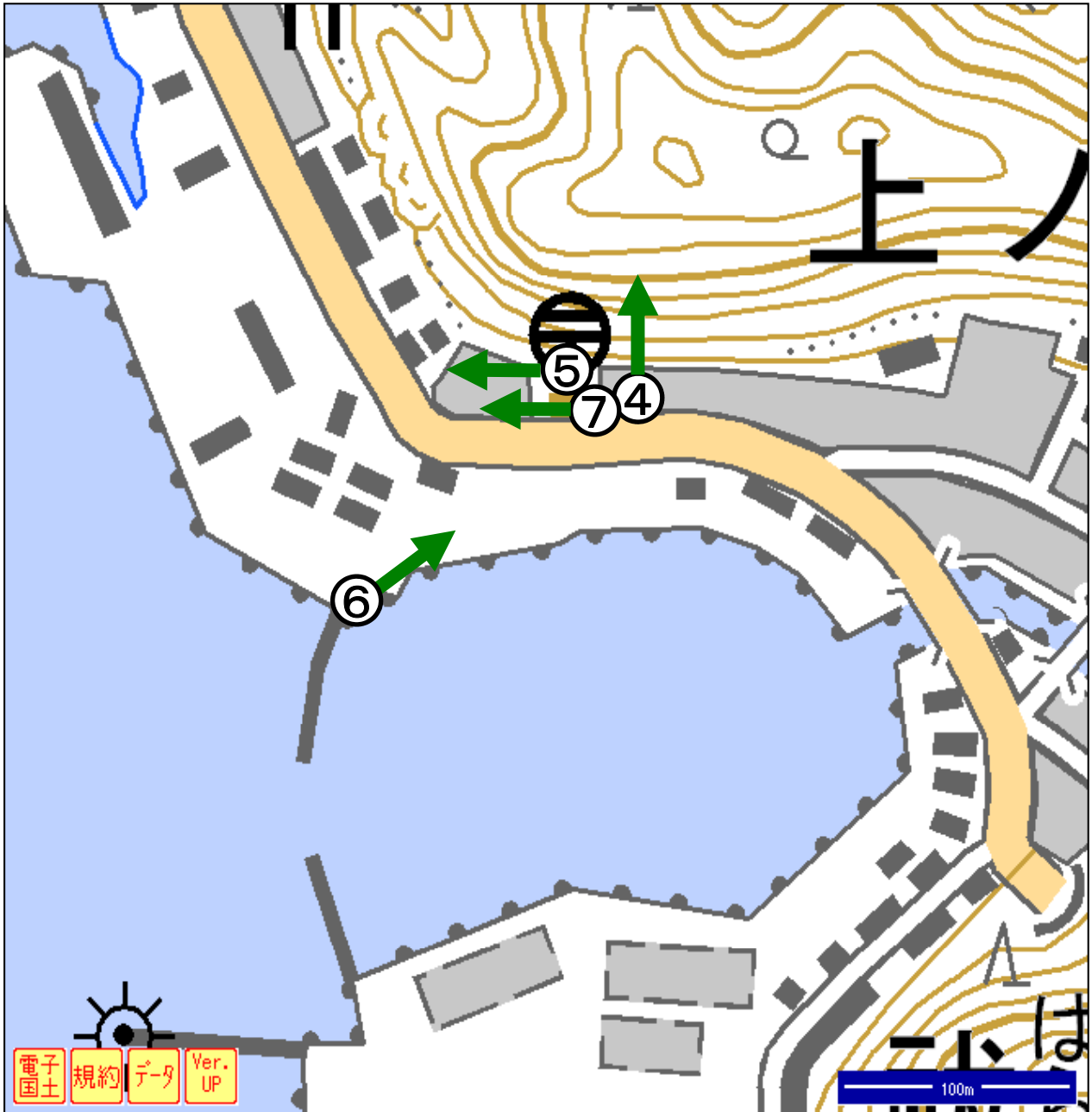
○写真撮影位置方向図（千葉県鴨川市天津）

➡ は写真を撮影した方向
番号は写真を撮影した位置で、各被害状況写真の番号に対応している。



○写真撮影位置方向図（千葉県鴨川市小湊漁港）

➡ は写真を撮影した方向
番号は写真を撮影した位置で、各被害状況写真の番号に対応している。



○被害状況写真

(1) 鴨川市天津で発生した突風被害



①カーポートの倒壊



②屋根から剥がれて落下した瓦



③樹木の枝の折損

○被害状況写真

(2) 鴨川市小湊漁港で発生した突風被害



④崖上の倒木
(黄色の線で囲んだところが倒木)



⑤飛ばされた物置跡と飛散物(物置)
による柵の損壊跡

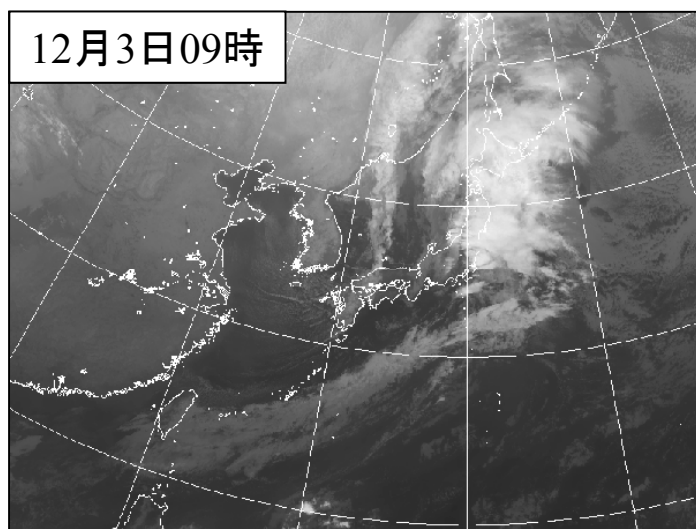
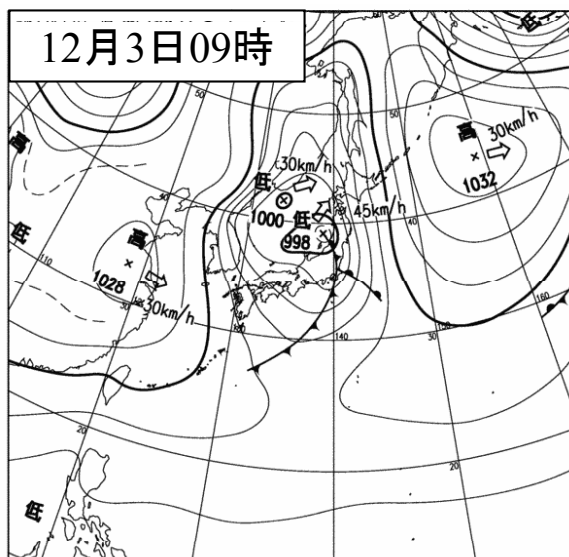
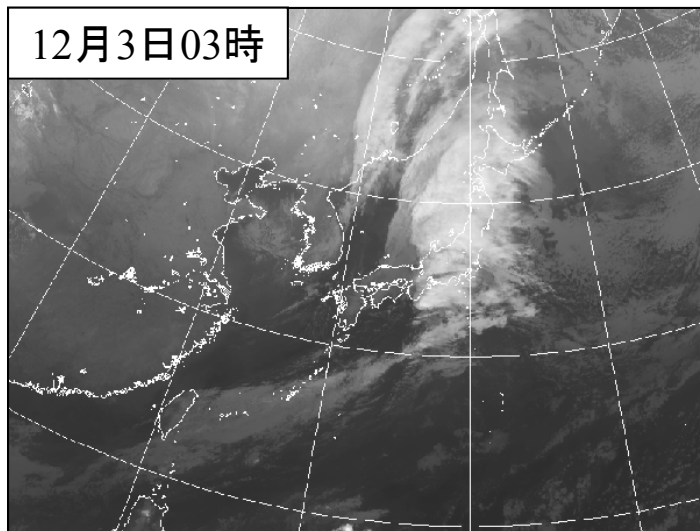
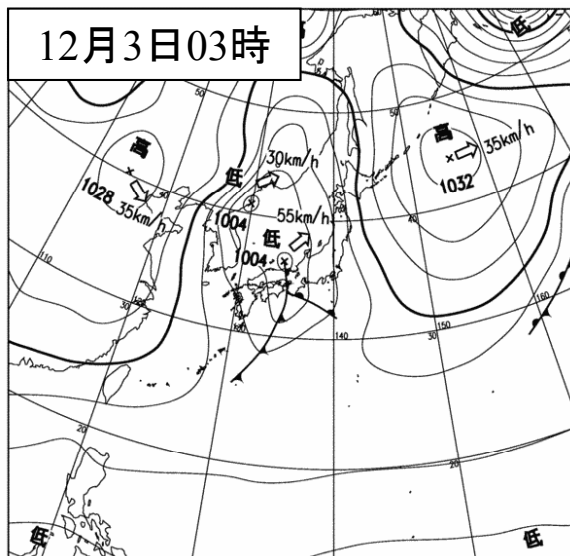


⑥陸揚げしていた漁船の横倒



⑦屋根瓦の被害

3 気象の状況

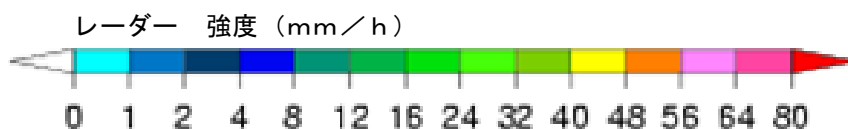
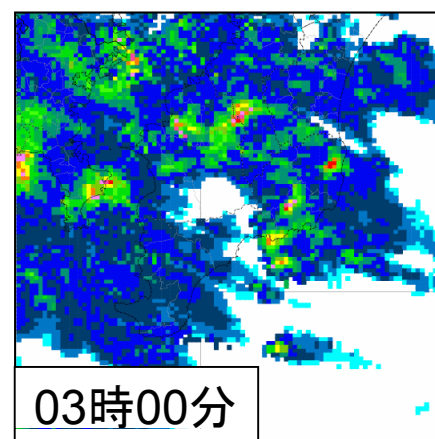
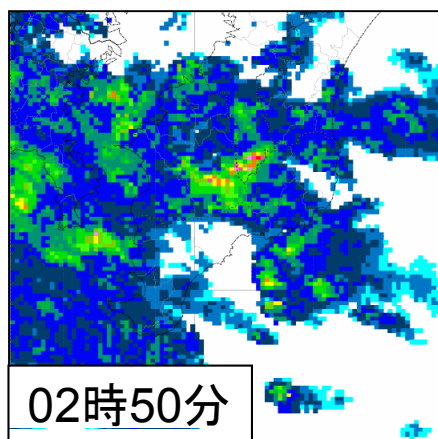
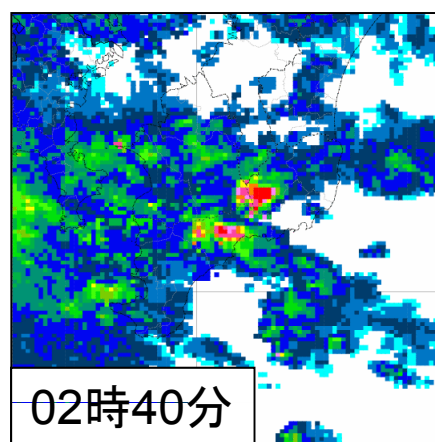
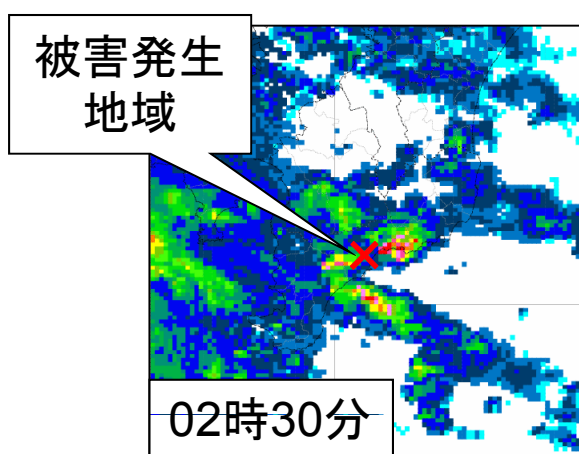
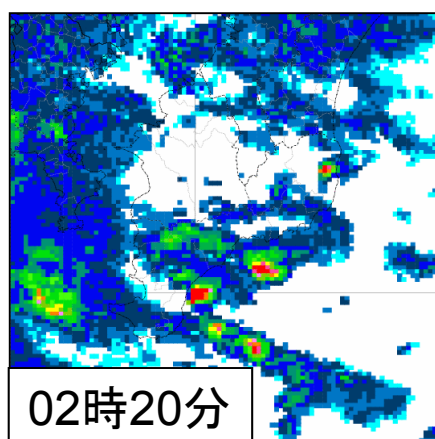
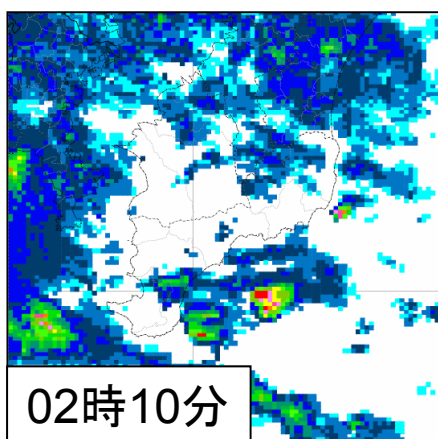


地上天気図および気象衛星「ひまわり6号」赤外画像

平成22年12月3日03時

12月3日09時

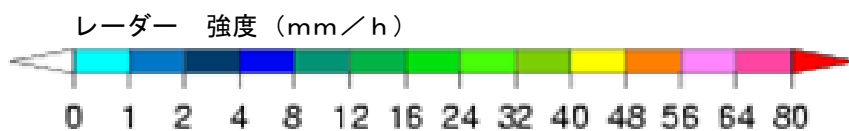
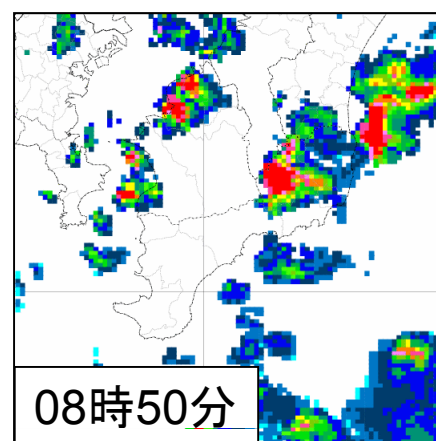
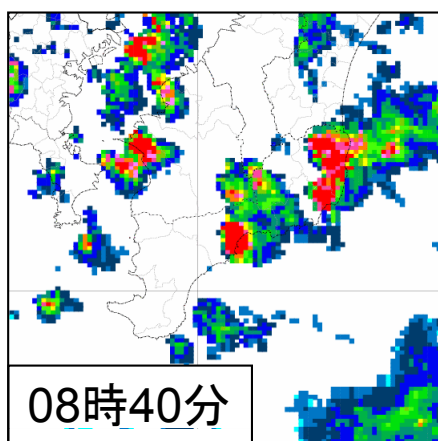
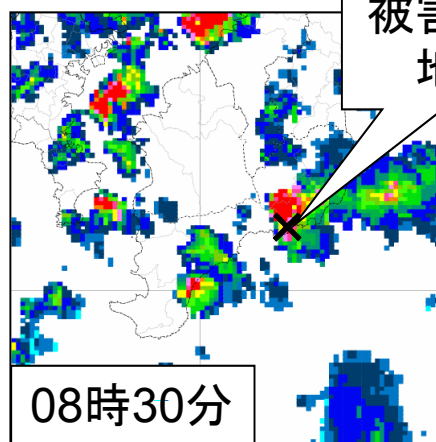
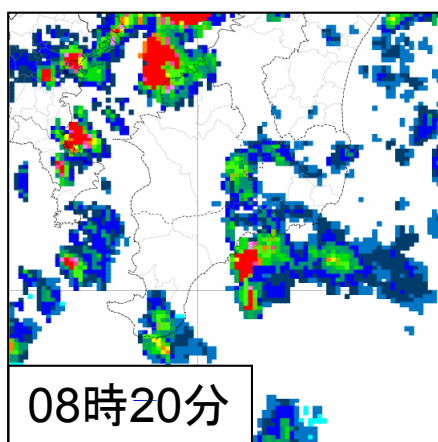
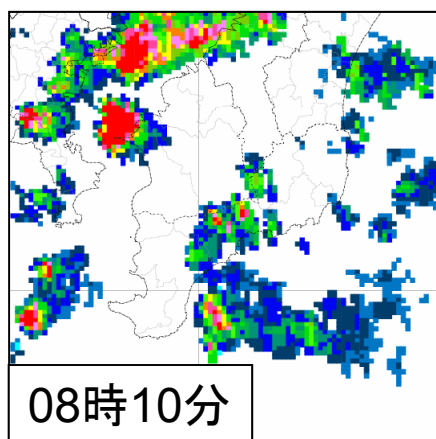
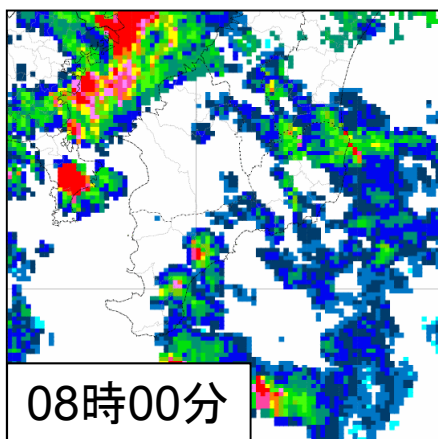
○千葉県鴨川市天津で突風害の発生した時間帯のレーダーによる雨雲の様子



レーダーエコー強度図 (全国合成レーダー)

平成22年12月3日02時10分～03時00分
図中×印は被害発生地域を示す。

○千葉県鴨川市小湊漁港で突風害の発生した時間帯のレーダーによる雨雲の様子



レーダーエコー強度図 (全国合成レーダー)

平成22年12月3日08時00分～08時50分
図中×印は被害発生地域を示す。

4 警報・注意報・気象情報の発表状況（銚子地方気象台発表）

平成22年12月2日16時52分～12月3日 21時32分

○警報・注意報の発表状況

鴨川市

発表時刻	暴風警報	波浪警報	大雨注意報	雷注意報	強風注意報	波浪注意報	洪水注意報
平成22年12月2日 16時52分				●	●	●	
平成22年12月2日 21時38分			●	○	○	○	●
平成22年12月3日 08時08分			○	○	○	○	○
平成22年12月3日 10時15分	●	●	○	○			○
平成22年12月3日 11時52分	○	○	解	○			解
平成22年12月3日 21時32分				解	▼	▼	

●：発表 ▼：警報から注意報 ○：継続 解：解除

○気象情報の発表状況

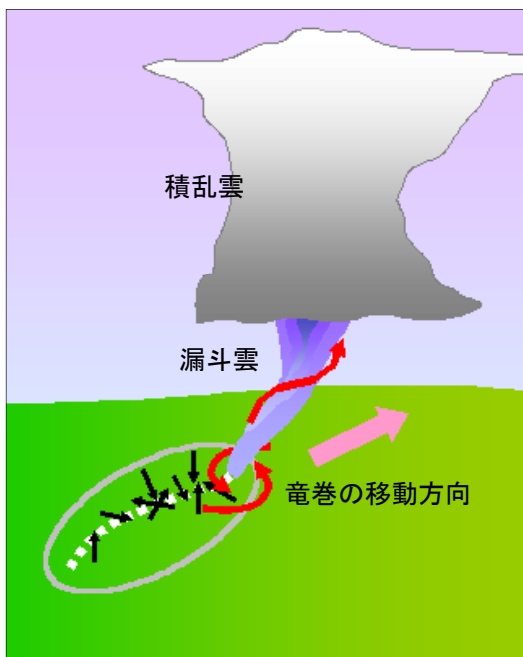
平成22年12月3日 06時27分	千葉県竜巻注意情報第1号
平成22年12月3日 07時27分	千葉県竜巻注意情報第2号
平成22年12月3日 08時25分	千葉県竜巻注意情報第3号
平成22年12月3日 09時26分	千葉県竜巻注意情報第4号
平成22年12月3日 10時25分	千葉県竜巻注意情報第5号

5 参考資料

突風に関する現地災害調査報告では、被害状況や聞き取り調査から突風が、「竜巻」、「ダウンバースト」、「ガストフロント」など、どの現象によってもたらされたかを推定しています。また、竜巻やダウンバーストによる被害などから、「Fスケール（藤田スケール）」というものさしを使って現象の強さ（風速）を推定しています。ここでは、それぞれの現象とその被害の特徴、Fスケールについて紹介します。

竜巻とは

竜巻とは、積乱雲または積雲に伴って発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状の雲（「漏斗雲」といいます。）を伴っています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低いため、地表面の近くでは空気は渦の中心に向かうように吹き込み（収束）、回転しながら急速に上昇します。



竜巻とその被害の様子

赤矢印は空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向、白点線は竜巻の経路を表しています。竜巻の発生時にはしばしば積乱雲から漏斗状の雲がのびています。竜巻は周囲の空気を吸い上げながら移動しますので、倒壊物等は竜巻の経路に集まる形で残ります。



竜巻の移動経路と風向分布の例（新野他、1991）

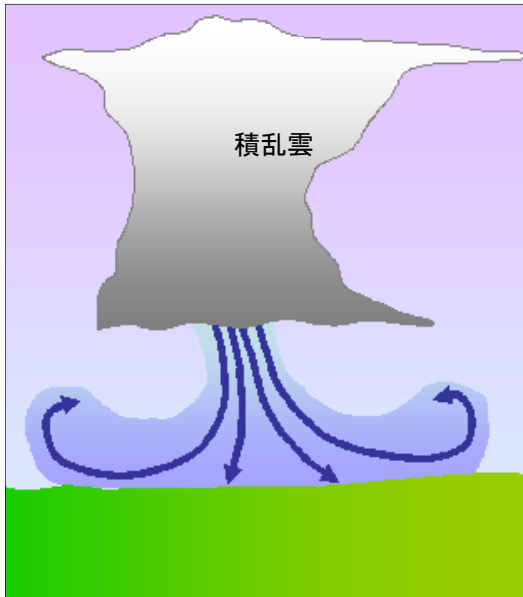
平成2（1990）年12月11日千葉県茂原市で日本では戦後最大級の竜巻が発生しました。この図は、地面近くの構造物や畑の作物の倒れ方の調査から推定した竜巻の移動経路（点線）と風向分布（矢印）です。このように、現地調査を行うことで竜巻の移動経路や風向を知ることができます。また被害の程度から竜巻の強さを知ることができます。

竜巻の現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

- 竜巻の移動とともに風向が回転する。
- 発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。ただし、積雲に伴う場合には、ないこともある。
- 気圧が下降する。急激な気圧低下に伴って、耳に異常を訴える場合がある。
- 被害地域は細い帯状となることが多い。
- 残された飛散物や倒壊物はある点や線に集まる形で残ることがある。
- 重量物（屋根・扉など）が舞い上げられたように移動する。
- 漏斗雲が目撃されたり、飛散物が筒状に舞い上がっているのが目撃されることが多い。飛散物が降ってくる。
- ゴーというジェット機のような轟音がすることが多い。

ダウンバーストとは

ダウンバーストとは、積雲や積乱雲から爆発的に吹き下ろす気流とこれが地表に衝突して周囲に吹き出す破壊的な気流のことをいいます。水平的な広がり大きさにより2つに分類することがあり、広がり4 km以上をマクロバースト、4 km以下をマイクロバーストといいます。



ダウンバーストのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重いダウンバーストの空気を、また、青矢印はダウンバーストの空気の流れを表しています。

ダウンバーストの現象・被害等の特徴をまとめると次のようになります。

- 地上では発散的あるいはほぼ一方の風が吹く。
- 発生場所付近に対応するレーダーエコーがある。
- 気温や気圧は上昇することも下降することもある。
- 短時間の露点温度下降を伴うことがある。
- 強雨や雹を伴うことが多い。
- 被害地域が竜巻のように「帯状」ではなく、「面的」に広がる。
- 物の飛散方向や倒壊方向は同じか、ある点から広がる形となる。

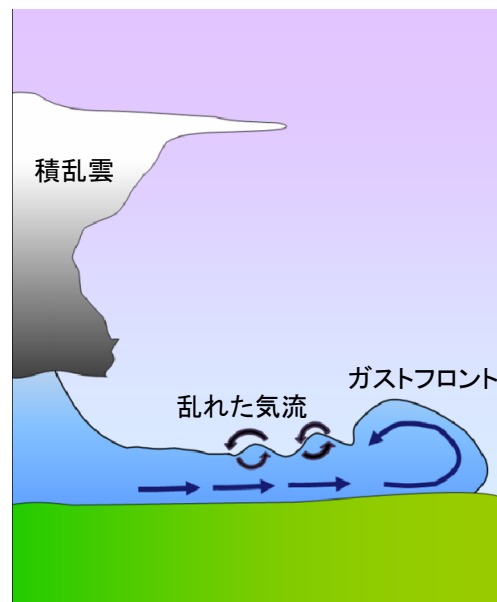


ダウンバーストの被害の様子

青矢印はダウンバーストの空気の流れ、黒矢印は樹木等の倒壊方向です。積乱雲が移動している場合には、このように移動方向の吹き出しのみが強くなる場合がほとんどです。吹き出しの強さに対応して倒壊物の方向も一方向や扇状になることが少なくありません。

ガストフロントとは

ガストフロントとは、積雲や積乱雲の下に溜まった冷気が周囲に流れ出し（冷気外出流といいます。）、周囲の空気との間に作る境界のことをいいます。突風（ガスト）を伴うことがあることから、突風前線と呼ばれます。



ガストフロントのイメージ図

薄青の領域は周囲より冷たくて重い空気を、また、青矢印は冷気外出流を表しています。黒矢印は乱れた気流を表しています。

ガストフロントの現象等の特徴をまとめると次のようになります。

- 降水域から前線状に広がることが多い。
- 風向の急変や突風を伴い、しばらく同じ風向が続くことが多い。
- 気温の急下降や気圧の急上昇を伴うことが多い。
- 降水域付近のみでなく、数10kmあるいはそれ以上離れた地点まで進行する場合がある。

その他の突風

その他の突風には、じん旋風などがあります。じん旋風は竜巻と同様に鉛直軸をもつ強い渦巻きですが、積乱雲や積雲に伴って発生する竜巻とは異なり、晴れた日の昼間などに地表面付近で温められた空気が上昇することによって発生します。

F スケール（藤田スケール）とは

F スケール（藤田スケール）とは、竜巻やダウンバーストなどの風速を、構造物などの被害調査から簡便に推定するために、シカゴ大学の藤田哲也博士により1971年に考案された風速のスケールです。日本ではこれまでF 4以上の竜巻は観測されていないとされています。

F スケールの各スケールの風速の下限Vは
 $V=6.3(F+2)^{1.5}$ (m/s)

で与えられ、F 1はビューフォートの風力階級（気象庁風力階級）の第12階級（開けた平らな地面から10mの高さにおける10分間平均風速で32.7m/s以上）、F 12はマッハ1（音速：約340m/s）になるよう定義しています。ただし、ビューフォートの風力階級のような10分間の平均風速に基づくものではなく、ある点を吹きぬけた空気が1/4マイル（約400m）

遠方まで達するのに要する時間内の平均風速によると考えて求めたものです。各スケールと被害との対応は、藤田によると次のとおりとなります。

F0： 17～32m/s（約15秒間の平均）

テレビアンテナなどの弱い構造物が倒れる。小枝が折れ、根の浅い木が傾くことがある。非住家が壊れるかもしれない。

F1： 33～49m/s（約10秒間の平均）

屋根瓦が飛び、ガラス窓が割れる。ビニールハウスの被害甚大。根の弱い木は倒れ、強い木は幹が折れたりする。走っている自動車が横風を受けると、道から吹き落とされる。

F2： 50～69m/s（約7秒間の平均）

住家の屋根がはぎとられ、弱い非住家は倒壊する。大木が倒れたり、ねじ切られる。自動車が道から吹き飛ばされ、汽車が脱線することがある。

F3： 70～92m/s（約5秒間の平均）

壁が押し倒され住家が倒壊する。非住家はバラバラになって飛散し、鉄骨づくりでもつぶれる。汽車は転覆し、自動車はもち上げられて飛ばされる。森林の大木でも、大半折れるか倒れるかし、引き抜かれることもある。

F4： 93～116m/s（約4秒間の平均）

住家がバラバラになって辺りに飛散し、弱い非住家は跡形なく吹き飛ばされてしまう。鉄骨づくりでもペシャンコ。列車が吹き飛ばされ、自動車は何十メートルも空中飛行する。1トン以上ある物体が降ってきて、危険の上もない。

F5： 117～142m/s（約3秒間の平均）

住家は跡形もなく吹き飛ばされるし、立木の皮がはぎとられてしまったりする。自動車、列車などがもち上げられて飛行し、とんでもないところまで飛ばされる。数トンもある物体がどこからともなく降ってくる。

【参考文献】

大野久雄著(2001):雷雨とメソ気象. 東京堂出版, 309pp.
新野宏・藤谷徳之助・室田達郎・山口修由・岡田恒(1991):1990年12月11日に千葉県茂原市を襲った竜巻の実態と

その被害について. 日本風工学会誌, 第48号, 15-25.
日本気象学会編(1998):気象科学辞典. 東京書籍, 637pp.
Fujita,T.T.(1992):Mystery of Severe Storms. The University of Chicago,298pp.

現地災害調査速報の作成主旨について

気象台では、大雨や暴風等によって人的な被害等を伴う災害が発生した場合、災害発生の変因となった現象と災害との関係等を迅速に把握するため、可能な限り速やかに災害が発生した地域に職員を派遣し調査を実施することとしている。さらに、現地調査終了後、その調査結果に加えて気象現象の発生状況、実況資料、気象台の執った措置等を速やかに取りまとめ「現地災害調査速報」を作成し、地方公共団体や報道機関等に対して説明を行うこととしている。

気象台として、この速報が地域の防災機関・報道機関とのさらなる連携強化及び地域防災力の向上に役立つことを願っている。

東京管区気象台技術部気候・調査課

問い合わせ先

銚子地方気象台 防災業務課

東京管区気象台技術部気候・調査課

※ 速報の内容について、私的使用又は引用等著作権法上認められた行為を除き、東京管区気象台に無断で転載等を行うことはできません。また、引用を行う際は適宜の方法により、必ず出所（東京管区気象台）を明示してください。速報の内容の全部または一部について、東京管区気象台に無断で改変を行うことはできません。